

新規実施項目のお知らせ

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
このたび、新たに下記の項目が受託可能となりましたのでご案内いたします。
ご利用いただきますよう、お願い申し上げます。

記

■実施日 令和2年3月31日（火）ご依頼分より

■新規実施項目

項目コード	検査項目	検査方法	基準範囲 (単位)	検体量 (mL)	容器	保存	所要 日数	実施 料	判断 料	備考
4A14-02	抗ヘリコバクター ピロリ抗体[LA]	ラテックス凝 集比濁法	10未満 (U/mL)	血液 3.0	X	室温	2~5	80	144 (免疫)	
4A15-02	胃がんリスク層 別化検査(ABC 分類)[LA]	ラテックス凝 集比濁法 CLEIA	※ 裏面参照	血液 5.0	X	室温	2~5	-	-	ペプシノゲンとヘ リコバクターピロリ 抗体を実施し、そ れぞれの検査結 果とABC分類をご 報告いたします。

* 依頼方法は今までと変更ありません。

■受託中止項目

今回の新規受託開始に伴い、下記項目は令和2年3月30日(月)依頼分をもって受託中止
とさせていただきます。

総合検査案内頁	項目コード	検査項目	検査方法
93	4406-02	抗ヘリコバクターP IgG	EIA
32	5877-02	ABC分類	ヘリコバクターピロリIgG抗体EIA ペプシノゲンCLEIA

詳細については裏面をご参照ください。

●抗ヘリコバクターピロリ抗体〔LA〕、胃がんリスク層別化検査(ABC分類)〔LA〕

従来からの問題点(陰性高値)を無視できると推奨されたピロリ菌抗体検査です。

胃がんの主な発症原因はピロリ菌感染であり、ピロリ菌の感染歴を調べるために、血液による抗ヘリコバクターピロリ抗体検査が広く用いられています。

これまで、ピロリ菌に現在感染している状態を“現感染”、感染していない状態を“未感染”と分けていますが、血液中のピロリ菌抗体検査において、未感染と現感染が混在する問題(陰性高値)がありました。

本検査は、上記の問題点を無視できると日本胃がん予知・診断・治療研究機構から推奨されている試薬を使用しており、より精度が高い検査です。

除菌対象となる現感染者を効率的に把握し、胃がん予防の一助としてご活用ください。

▼ 疾患との関連

胃がん
ヘリコバクターピロリ感染症

▼ 関連する主な検査項目

便中ヘリコバクターピロリ抗原
ヘリコバクター感受性検査

●ABC分類判定基準

ABC分類		抗ヘリコバクターピロリ抗体	
		10未満(-)	10以上(+)
ペプシノゲン	(-)	A群	B群
	(1+)~(3+)	D群	C群

A群	健康的な胃粘膜で、胃疾患の危険性は低いと考えられます。
B群	消化性潰瘍に留意する必要があります。
C群	萎縮の進んだ胃粘膜で、胃がんなどになりやすいタイプと考えられます。
D群	萎縮が非常に進んだ胃粘膜で、胃がんなどになりやすいタイプと考えられます。